

223軌道装置を起因物とする死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2017	7	8~9	ゴルフバック自動搬送車の通路周辺で話をしていたら搬送車に気がつかずぶつかってしまった。数日たっても痛みがとれず右第10肋骨を骨折していた。	61	6	140301	50~99
2	2016	4	10~11	組立工場にて停止中の無人搬送車を発進させる為、歩行中、結露状態の床面で左足を滑らせバランスを崩して無人搬送車の先端に左足の頸をぶつけて受傷した。	55	2	11502	1000~9999
3	2015	5	20~21	一時防錆剤補給作業中、ロープを取りに行くため台車を降りた時、稼働していた台車とストッパーに挟まれ受傷した。	57	7	11204	50~99
4	2015	2	15~16	工場中型エンジン運転検査ラインで、ライン内の廃油を捨てる為エンジン搬送用AGV走行レーンを手押し台車を押し歩行中、前方のAGVの走行待ちをしていた。その時、後方からAGVが接近し、障害物センサーで感知し停止させていたが足が障害物センサー感知から外れ、AGVが前進し台車との間に左足を挟まれた。	40	6	11502	1000~9999
5	2014	8	16~17	前処理脱荷にて酸洗済コイルの端末が引っ掛かり、コイルの荷姿が悪くなって酸洗キャリアに装着できないトラブルが発生し、トラブル回避の応援に行き荷姿を修復して、キャリア装着の合図をしてから脱荷倒立台車を運転させたが、左足がレール上にあることに気づかず、前進してきた倒立台車に左足を踏まれ被災した。	34	7	170101	10000~

6	2014	8	8 ～ 9	コイル加工ラインで、ステン材のパイラー台車に台木を載せようとして、台車の側面に立ち上がった為、動いている台車に左足をひかれた。	53	7	170101	10～ 29
7	2014	7	11 ～ 12	トンネルキルン出口付近で、窯出し試験品を降ろし運搬中に、台車とトラバーサ本体が通る間にある移動経路から右足を踏み外し、同時に焼成担当者が線路切り替えの操作を行い、トラバーサが走行しており、トラバーサとピットに右足が挟まり圧迫され負傷した。	40	7	10903	100～ 299
8	2014	5	14 ～ 15	水揚げ場で玉掛け作業のためトロッコレールに背を向けて作業をしていたところ、別の作業員がトロッコを作動させ、左後方からトロッコが通過してきた際、避けるのが遅く、トロッコと品物の間に両足を挟み、すねとふくらはぎを負傷した。	35	7	11204	30～ 49
9	2014	5	9 ～ 10	工事現場に於いて、法面傾斜地（35°）で土砂を搬出する為に、荷上機（長さ21.3m、幅約65cm、高さ約50cm）のレールを約80m程度に設置して、なお上にのぼす為にレール中に入り接続作業中、下より荷上機が上がってきた事に気づかず、荷上機とレールに挟まれて両足と腰を負傷した。	32	7	30199	10～ 29
10	2014	4	13 ～ 14	みかん畑で剪定の後始末中に、切株につまづきモノラックのレールに片足を引っ掛け、モノラックに引かれ右足親指を骨折した。	61	7	60101	1～9
11	2014	4	3 ～ 4	オフセット輪転機において、受傷者は巻取紙の自動装着動作中に、作動エリア内に入り、上昇したリフターの上で次の作業準備をしていた。作業が終わり、自動的に下降していたリフターから降りる時、右足先端をリフター本体と開口部の端部の間に挟み、第5指を切断した。	19	7	10701	-
12	2014	3	11 ～ 12	道路から家までの約150mの乗用モノレール工事中に、モノレール本機を止めようとした時、足を滑らせレールの下に両足が張り込み、足の上をモノレールが通過し両足を負傷した。	42	7	30302	1～9

13	2013	11	14 ～ 15	モノレールにある資材荷降ろし作業中、バランスを崩し、かけていた足を滑らせ、転倒した。	40	2	30199	30～ 49
14	2013	11	9 ～ 10	工場内のめっき設備の清掃中、自動機の荷台とレールの間に手指が挟まれた。	37	7	11204	10～ 29
15	2013	8	9 ～ 10	2名で台車運搬作業中、躓き、転倒し、台車の先頭部に挟まり、股関節を脱臼した。	62	2	11301	50～ 99
16	2013	7	13 ～ 14	パソコンを抱え車両検修庫内の通路を歩行中、線路を横断した際、レールの際間に足がはまり込み、バランスを崩し、ピット（720mm）下に転落した。	58	2	11503	100～ 299
17	2013	2	6 ～ 7	被災者は、押出機運転手より「消火電車がタイムオーバーで停止した」との無線連絡を受け、消火車に乗り込もうとした。この直前、コントロールセンターにて当該消火電車タイムオーバー解除操作を実施していたため、当該消火電車が動き始め、乗り込み中の被災者は手摺にぶら下がった状態となり、5m下の消火車道へ飛び降り、足を骨折した。	54	1	10804	300～ 499
18	2013	2	4 ～ 5	駅構内にて、軌道モーターカーによる軌道材料運搬作業終了後の入れ換え作業中、大型荷台付運搬車から降車する際、台枠に足を引っ掛けた為、バランスを崩し、落下。レールに脛を強打し、負傷した。	37	1	40101	50～ 99
19	2013	1	15 ～ 16	収穫作業中、台車と支柱の間に親指をはさみ挫創した。	76	7	60101	不明
20	2013	1	17 ～	競技場にて、助走路の整備中、インラン整備機へ乗った際、バランスを崩し、ワイヤーロープに手が乗っかり、ワイヤーロー	24	7	40101	300～ 499

			18	プと滑車の間に指を挟まれた。				
21	2012	12	2 ～ 3	工場にて、滑車レール清掃作業中、地面から190cmぐらいの高さから足が滑り、コンクリート地面に落下し、負傷した。	46	1	150109	10～ 29
22	2012	5	14 ～ 15	セメント（固化材）充填設備にて、フレコンに充填後、タンク内から外へトロッコで移動する為、ボタンを押し、トロッコが動き始めた際、タンク内に入ろうとしたところ、トロッコと扉との間に足が挟まれた。	61	7	50201	50～ 99
23	2012	2	9 ～ 10	トロッコの上に載っている自社製品を下ろすため、上に登ろうとした際、滑って転び、製品に顎をぶつけ負傷した。	66	1	11209	10～ 29
24	2012	2	0 ～ 1	道床部分修繕作業中、軌道用モーターカーと10t台車の連結切離しを行なった際、連結ピンの調整確認を行なっていたところ、微勾配により、軌道用ノーターカーが動き、モーターカーと10t台車の間に挟まれた。	63	7	30104	100～ 299
25	2011	12	23 ～ 24	A社工場内の印刷4号機スタッカーにて、スタッカーエレベーターからブリキ板が積載された台を降ろす作業を行っていた。エレベーターが最下部まで下がると自動的に台がコンベアに移動するようになっているが、勘違いをして台の下に手を入れて引き出そうとしてしまい、移動してきた台とコンベアの間で右手薬指を挟んでしまった。	35	8	10701	50～ 99
26	2011	11	9 ～ 10	車体入れ準備作業を7名の社員で開始した。被災者はNO. 1（A方）台車を車体入れ所定位置に移動するため、台車の2位側（北B方）の車輪踏面を2名で押していた。床面からピットに入った所で、車輪とギャケースの間に左手の皮手袋が挟まれたため左手小指を受傷した。車輪とギャケースの狭い間に、左手の皮手袋が挟まれたことが原因。	53	7	11503	100～ 299
				現場でミーティング実施後、1高炉集塵送水管更新作業を開始				

27	2011	9	9 ～ 10	し、被災者は作業で使用する案内ロープを持って、駐車場から作業現場へ移動中、# 1 軌道敷内通路に侵入した際、走行して来た機関車前方左側に接触し、転倒後、左足を車輪に巻き込まれ被災した。	62	6	30302	10～ 29
28	2011	6	14 ～ 15	合板をプレスする場所にて、プレス機から出て来た合板を、リフター（つみ取り台）に出す作業で、リフターが動いているところに足があった為、リフターに挟まれた。足首を捻り捻挫し、ふとももを痛めた。	62	7	10409	1～9
29	2011	4	8 ～ 9	社用車に乗り作業に行く途中の農道十字路で一時停止の標識がないため双方とも走行し、出合がしらの接触事故を起こした。車のフロント部分がつぶれ、ドアに挟まれるなどしたことから骨折した。	68	17	60101	1～9
30	2009	10	1 ～ 2	鉄道線路の閉鎖に着手した後、軌陸車（線路を走行可能なトラック）を載線して移動した。被災者は、軌陸車を停止し後部の梯子を降ろし降車しようとしていた時、最徐行で接近してきた後続の軌陸車と接触し、右膝を骨折した。軌陸車を途中で停止した理由は、路線の運転状況を確認するためだった。	53	7	30104	10～ 29
31	2009	8	12 ～ 13	被災者は台車運転者に合図を送り、運搬台車の走行開始を確認した後、台車進行方向の操作室に向かうため、そこに視線を向け、台車の通過を待っていた。被災者は走行中の運搬台車が被災者の横を完全に通過したと思い込み、操作室へ向かうため、台車軌道内に移動した。その時、台車が近付き、台車上に積んでいた輪の角が左足に当たり、台車上に尻餅をついた。台車運転者は被災者に気づきブレーキをかけたが、台車は惰性で進み、被災者の左足が2 m先の転動輪と台車に挟まれ、負傷した。	38	7	11002	300～ 499
				工場内で製材作業中に、レール上の連結送材車に角材（長さ3 m×30 cm×20 cm位）を乗せた際に、送材車の下のレー				

32	2009	6	13 ～ 14	ル上に、リン木にしていた角材（長さ90cm×75mm×60mm位）が落ちて、それを負傷者が拾おうとした際、角材（3m）の上に右手を置いた時、運転者が安全確認を怠り、角材を固定するための油圧式の鉄製のカスガイを操作し、右手指にカスガイが当たり負傷した。	65	7	10401	1～9
33	2009	5	9 ～ 10	事業所構内において、定盤の駆動輪移動屋根が移動している最中に、別作業でケーブルを引っ張って差し込む作業を行っていた。屋根を移動させている者と交差する為、ケーブルを下に置いた。通過後、ケーブルを取ろうとした時、移動屋根の駆動モーター部分が、近付いてきて、駆動モーターとケーブルハンガー支柱に頭部を押され打撲した。	60	7	11501	30～ 49
34	2009	1	16 ～ 17	プレス機の攪拌機入替作業中、下に落ちていた雑誌を拾い、機械に入れようとした時、バランスを崩し、攪拌機のレールに手をついた。そのため左手を攪拌機とレールに挟まれ、左手3指を負傷した。	33	7	10601	10～ 29
35	2008	9	8 ～ 9	コンベア付近で部品の説明中、ガイドレールに左足を乗せてしまい、その際に左足を捻った。コンベア側に崩れ落ち、右肘をついた状態になった。	34	19	11301	300～ 499
36	2008	8	23 ～ 24	軌道モーターカーに乗って降りる間に、モーターカーが約20m移動したことを忘れ、ステップを使い降りようとしたところ、ホッパー線の落差約3mの所に墜落した。	61	1	30309	10～ 29
37	2008	8	1 ～ 2	動かなくなったSTV（自動搬送機）の故障原因を確認する為、全停せずに軌道内に入った。その際、故障したSTVと後ろで停止中のSTVの間を通った為、停止中のSTVのセンサーが遮断され、急に動き出し、故障中のSTVに股を挟まれた。	34	6	10805	100～ 299
38	2008	8	11 ～ 12	アンローダーにて作業中、身体がふらついた為、支えようと、誤ってレール上に手を置き、走行してきた車輪とレールに左手指を挟まれた。	52	7	10901	10～ 29

39	2008	8	14 ～ 15	製品へ現品票を添付する為、ライン側より梱包場所へ移動しようと、コイルカーを渡った際、梱包側台車レールとコイルカー側の段差に右足を取られ、前進してきたコイルカーレールに挟まれた。挟まれた右足は安全靴から抜けたものの、弾みでコイルカー側へ身体が倒れ込み、そこへスキットカーが前進してコイルカーへ連結した。連結状態の下敷きになり、腰部を挟まれ負傷した。	29	7	11209	50～ 99
40	2008	7	14 ～ 15	アスファルトプラント稼働中、不具合箇所を点検・監視中に、誤ってレールに手を置いてしまった。そこに動き出したトロリに右手を挟まれてしまった。	30	7	10899	10～ 29
41	2008	5	13 ～ 14	ゴンドラ付近の草が茂っていることに気付き、被災者が単独でゴンドラのレールに乗り刈ろうとしたところ、足を滑らせ転倒し、右脇腹から胸にかけてレールで強打し負傷した。	60	2	140301	50～ 99
42	2008	3	18 ～ 19	製品から発生する砂がライン上に堆積していないか確認しようとレール上をのぞきこんだ。その際、体のバランスを取ろうと左手を置いた場所がレール上であったため、製品を載せた台車の車輪とレールに挟まれ、左手指を負傷、骨折した。	21	7	11002	50～ 99
43	2008	2	9 ～ 10	注湯場所でオシレートを掃除後、高さ50～60cmから降りようとした時、レールの上に足がつき、体勢がくずれ骨折した。	53	3	11102	30～ 49
44	2008	1	9 ～ 10	軌道敷内複線合流場所で台車預け及び切り廻し作業中、隣の線路を通過する際、他線に預け置きした台車に接触する事故を起こし負傷した。	29	3	11001	500～ 999
45	2007	10	17 ～ 18	ツイン帯のこ盤を運転中、製品受取りがトラブルを起こし操作盤に行きトラブル回避した後、自動運転ボタンを押した時、足をレールの上に置いていたため、足の指に前進してきた台車の車輪が当たり足指を負傷した。	29	7	10401	50～ 99

46	2007	10	9 ～ 10	工場内の専用線で貨車の入換え作業中、ポイント停止し降車する時、足から降りたが、地面の着地場所が傾斜していて不安定なところに降りたため、足を滑らせ転倒し、足を負傷した。	61	1	50101	10～ 29
47	2007	9	12 ～ 13	工場内でライン作業時、治具を交換しようとして、治具を持ち上げたところ、治具を引っ掛けてある銅板もいっしょにはずれて落下し、頭部を負傷した。	22	4	11204	30～ 49
48	2007	7	17 ～ 18	工場の現場から会社へ帰る途上の公道で、会社の車に同乗している時、会社の車が交差点へ進入した時点で（信号が黄色にかわり）、相手の車が赤信号を交差点へと進入してきたため、会社の車の助手席側へ相手の車の前側がぶつかり、首を負傷した。	63	17	30201	1～9
49	2007	7	16 ～ 17	空調工場内で、冷温水器の外付け配管の組み合せ作業中、縦配管と横配管を合わせるために、取り付け治具を弛めたところ、仮付けしていた配管（長さ約2m、23kg）が落下し、それを回避しようとした時に、電動台車で胸部を打ち、負傷した。	22	3	11301	100～ 299
50	2007	6	9 ～ 10	足場組立に使用する足場材を運搬中、被災者は、発進地点から終点までの間の数箇所に足場材を分けて降ろすため、モノレールを途中停止させる事が出来るように、足場材と一緒に移動していた。被災者が被災地点でモノレールを停止しようと接近した際、斜面上でバランスを崩し、とっさにモノレールの軌道の上に手を置いてしまい、移動中のモノレールに指を轢かれ負傷した。	20	7	30101	10～ 29
51	2007	5	13 ～ 14	工場で、APK・ウエイト載せ替え装置から「ウエイト」が落下し装置が停止した。APKの係員2名と被災者の3名で復旧作業をしていた。全装置を自動運転にて載せ替え装置のみ手動で運転し、テコでこねて装置のクランプに載せていたところ、「ウエイト」が所定位置に納まった。その時、センサーが働きトラバーサー台車が動いた。被災者はトラバーサーのレールへ足を	38	7	11002	100～ 299

				かけていたので足をすくわれ、台車で引きずられ、冷却ラインのプッシャー部にて移動してきた鋳型台車とプッシャーのセンサー取り付けステーに足をはさまれ負傷した。				
52	2007	3	8 9	中央操作室からAヤードへ切粉回収作業に向かうことを作業 Aに伝え、作業に向う。約45分後、被災者が戻ってこない事 に気づき、捜索を開始。5分後、Aヤードで、被災者が切粉台 車のグリスの配管支柱と設備本体の柱の間に挟まれているところ を発見、死亡していた。	51	7	11001	30～ 49
53	2006	11	19 20	製鋼工場炉下にて、運転手（被災者）はステンレス滓4車を牽 引して製鋼入り口脱炭1線に仮置中の滓鍋積車2台を処理場に 運搬する目的で進入した。ディーゼル車と滓鍋台車を連結する 過程で、ディーゼル車と滓鍋台車の間に身体を挟まれ、被災し た。	59	7	11001	500～ 999
54	2006	9	13 14	ゴルフ場のコース内でカートからクラブを取ろうとして、カー トレールの段差につまづいて足をくじいた。	64	2	140301	10～ 29
55	2006	9	2 3	完成品置場でパレットを手で押し、さらに左隣のローラー上の パレットも押すために、左のシュートに移動しようとした際 に、高さ30cmの鉄製仕切り板に左足をぶつけ転倒し負傷し た。	26	2	11502	50～ 99
56	2006	8	9 10	サヤ積み業務のうち、中腰で足を後方に下げ前向きに作業して いたら、横からトロッコ台車が通過のために近寄って来たのに 気付かず、台車の最下部の鉄板に足を引っ掛け負傷した。	53	8	10903	50～ 99
57	2006	8	13 14	被災者は新幹線車体上げ場にて、車体上げ作業終了後、台車枠 に号車、部位の記入をするためピット内に入ったところ、記入 用のチョークを床に落してしまい、チョークを拾おうと手を レール面に置き、レール間から床面をのぞき込んだ時、解体場 に移動のため近づいてきた2台車の車輪とレールの間に手が挟	48	7	11503	500～ 999

65	2006	3	11 ～ 12	工場内において、砂型を移動させる台上で台車に乗った際（乗るべき台ではない）、台車が前方に動き、鉄板との隙間に体の一部を挟み、負傷した。	35	7	11002	10～ 29
----	------	---	---------------	---	----	---	-------	-----------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。